

い の ばる
井 ノ 原 遺 跡

—県営畑地帯総合整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査概要報告書(4)—

2019

宮崎県西諸県郡
高原町教育委員会

序 文

高原町内では、国営の西諸農業水利事業、及びそれに関連する県営畑地帯総合整備事業が実施されており、平成 28 年度からは県営畑地帯総合整備事業に係るほ場整備事業が施工されています。

平成 31 年度施工予定の後川内 1 期地区において、井ノ原遺跡が消滅等の影響を受けるため、宮崎県西諸県農林振興局の依頼を受けて、平成 30 年度、高原町教育委員会で井ノ原遺跡第 1 地点の第 1・4 区及び第 2 地点の発掘調査を行いました。本書はその発掘調査の概要報告です。

調査により、第 1 地点では縄文早期、中期、後～晩期の遺構・遺物が、第 2 地点では縄文晩期の遺構・遺物が検出されました。昨年度に引き続き調査した第 1 区では、縄文早期の竪穴建物跡、土坑が検出され、4 区でも早期の竪穴建物跡が検出されたほか集石遺構、土坑等も検出され、多くの土器や異形石器も出土しました。出土した遺物から縄文時代早期後半の約 8,000 年前頃と推定されています。

第 2 地点では縄文晩期の遺構、遺物が検出されています。また、時期不詳ながら 4,600 年前の火山噴出物、御池軽石の降下前と推定される陥し穴状遺構も検出されています。これらは、今後、高原町をはじめ宮崎県等の歴史・文化を考えるうえで貴重な歴史資料であると考えております。

本調査報告書が学術資料としてだけでなく、学校教育や生涯学習の場等で活用され、また、埋蔵文化財保護に対する理解の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査実施にあたって御協力・御指導いただきました宮崎県西諸県農林振興局、宮崎県文化財課、地元及び関係諸機関の方々に対して、厚くお礼申し上げます。

平成 31 年 3 月

高原町教育委員会

教育長 西 田 次 良

例 言

- 1 本書は、宮崎県西諸県農林振興局から依頼を受けて、平成 30 年度に高原町教育委員会が実施した県営畑地帯総合整備事業後川内 1 期地区に所在する井ノ原遺跡の発掘調査概要報告書である。
- 2 当遺跡は、宮崎県西諸県郡大字後川内字井ノ原 3374 番地 1 他に所在する。
- 3 発掘調査は、第 1 地点は高原町教育委員会埋蔵文化財調査員面高哲郎を調査担当者として、平成 30 年 4 月 23 日から平成 31 年 3 月 26 日までの間、第 2 地点については主任主事玉谷鮎美、埋蔵文化財調査員竹中美智子を調査担当者として、平成 30 年 6 月 4 日から平成 31 年 2 月 15 日までの間実施した。
- 4 遺構等の実測は、第 1 地点は面高のほか、玉谷、竹中、田中祐紀、池崎良夫、丸山修平、田崎広海、橋口廣海、吉村繁、原田賢雄が行った。第 2 地点においては玉谷、竹中、吉村、原田が行った。
- 5 本書の編集は、面高が行い、執筆は第 3 章を玉谷が、その後は面高が行った。
- 6 本書で用いたレベルは海拔絶対高である。方位は、真北である。
- 7 掲載遺物の番号は通し番号であり、本文・写真の番号は一致する。
- 8 本書で使用した遺跡発掘作業中の写真及び遺物写真は、第 1 地点については面高が、第 2 地点については玉谷が撮影した。
- 9 下記の業務について業者に委託した。
基準点・グリッド杭の設置・地形測量……………(有) ジパング・サーベイ
空中写真撮影……………(株) 九州航空
- 10 発掘調査及び概要報告書作成にあたっては、下記の機関、方々に適切なご指導・ご助言をいただいた。
新東晃一、吉本正典、栗畑光博、秋成雅博、松本 茂、(有)黒木建設
- 11 出土遺物及び実測図・写真等は、高原町教育委員会で保管している。

本文目次

第1章	はじめに	1
第1節	調査に至る経緯	1
第2章	第1地点の調査概要	2
第1節	第1地点の調査	2
第2節	調査地の層序	3
第3節	第1地点の調査概要	3
1	1区の調査	3
2	4区アカホヤ上位の調査	4
(1)	遺構	4
(2)	出土遺物	4
3	4区アカホヤ下位の調査	5
(1)	遺構	5
(2)	出土遺物	6
4	小結	7
第3章	第2地点の調査概要	8
第1節	第2地点の調査と層序	8
第2節	検出遺構と出土遺物	9
第3節	小結	9
第4章	まとめ	11

挿 図 目 次

第1図	調査地位置図	1
第2図	第1地点の調査地	2
第3図	第2地点の調査区	8
第4図	第2地点基本土層柱状図	8

写 真 目 次

1	井ノ原遺跡の近景	1	19	2段堀土坑出土土器 壺頸部	6
2	北から南を見た4区	2	20	石峰式 椀ノ原式 塞ノ神式	7
3	調査区北半の土層	3	21	塞ノ神式 苦浜式	7
4	調査区南半の土層	3	22	縄文早期包含層出土石器1	7
5	1区北端部の遺物出土状況	3	23	縄文早期包含層等出土石器2	7
6	検出された遺構	3	24	第2地点調査区全景	9
7	竪穴	4	25	作業風景	9
8	袋状土坑	4	26	基本層序	9
9	アカホヤ上位黒色土出土土器	4	27	土坑半截状況	9
10	アカホヤ上位黒色土出土土器・石器	4	28	陥し穴状遺構 土層堆積状況	10
11	表採遺物	5	29	陥し穴状遺構 逆茂木断ち割り	10
12	竪穴建物跡	5	30	出土土器1	10
13	2段堀土坑	5	31	出土土器2	10
14	配石炉	6	32	出土土器3	10
15	集石遺構壁面の配石状況	6	33	出土土器4	10
16	集石遺構壁面の配石状況	6	34	出土石器1	10
17	磨石2点の埋納状況	6	35	出土石器2	10
18	押型文 手向山式 平椀式	6			

第1章 はじめに

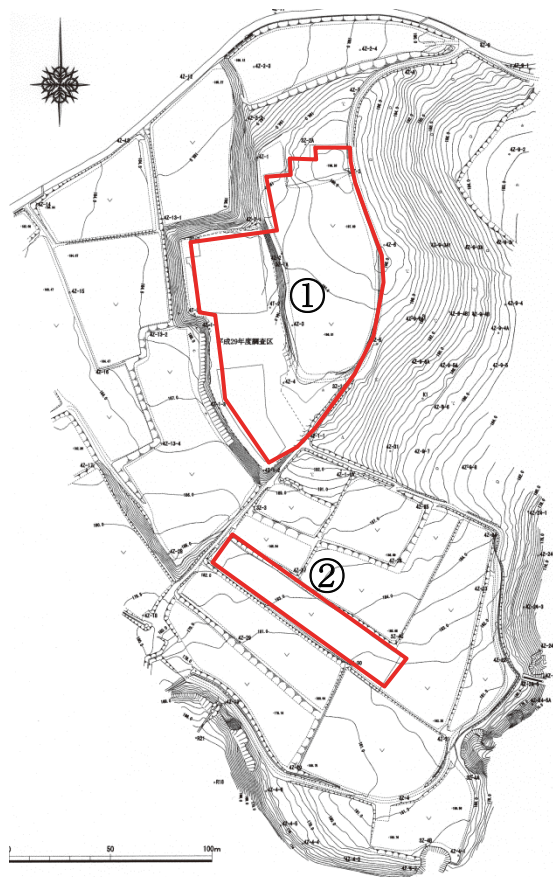
第1節 調査に至る経緯

川路山遺跡の東約400mには、標高198mを最高位とする丘状地形が存在する。この丘を中心としての西側には緩斜面が、また、南側には舌状の台地がある。東縁と北縁には深い開析谷等がある。これら一帯を井ノ原遺跡の推定範囲としている。

宮崎県西諸県農林振興局では、平成28年度から県営畑地帯総合整備事業に係るほ場整備及び水路埋設等を施工している。

井ノ原遺跡周辺のほ場整備は、平成31年度に施工予定であり、畑拡大のため、遺跡北東の谷部を埋めるなどの計画である。それに伴い、遺跡が存在する丘・西緩斜面及び舌状台地の一部は、削平される等の影響により、遺構等が消滅すると予想されている。そのため、西諸県農林振興局からの依頼により、高原町教育委員会が井ノ原遺跡の発掘調査を実施することになった。

遺跡の地形から、丘及び西緩斜面部分を第1地点、舌状台地部分を第2地点として調査を行った。



第1図 調査地位置図

①第1地点 ②第2地点



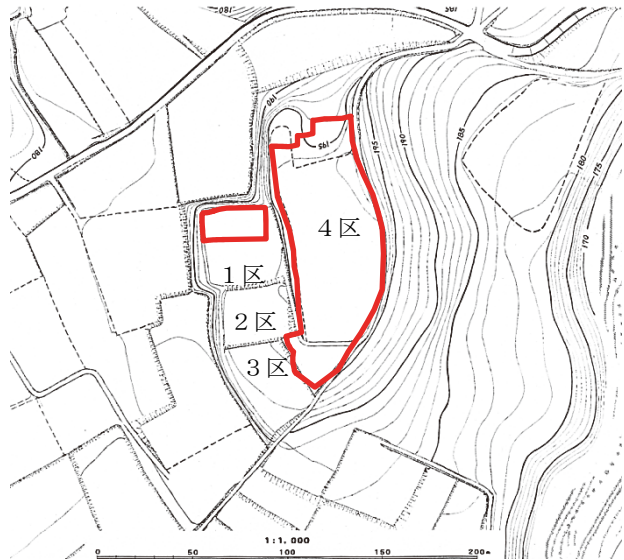
写真1 井ノ原遺跡の近景(西方向から) 第1地点：左丘部分 第2地点：右裾部(黒色土部分)

第2章 第1地点の調査概要

第1節 第1地点の調査

第1地点の調査対象地は、南北に延びる台地状地形の尾根部分から西側の緩斜面である。調査対象地は4枚の畑地であり、畑造成工事により段々畑になっている。調査にあたっては、畑ごとに1～4区としている。

調査計画では、平成29年度は1～3区の調査を実施にし、30年度は4区のみ調査予定であった。しかしながら、1区北端の傾斜が緩やかな箇所では、遺物が集中する箇所があり、その下において遺構の存在が予想されたので、昨年度に引き続き調査を実施した。そのため、本年度は1区の一部及び4区の調査を行った。



第2図 第1地点の調査地



写真2 北から南を見た4区、縄文早期の包含層面

調査着手時点の4区の現況は、北端は竹林、中央部は畑、南端の三角形部分は荒蕪地であった。中央の畑においてはゴボウが作付されていた。発掘作業着手前に4区の土層確認のため確認調査を行った。竹林の表土下の層は褐色土、南端の荒蕪地では表土下は黒色土であった。しかしながら、畑部分においては畑地造成がされており、また、畑での栽培作物はゴボウであり、ゴボウ作付けに伴うトラクターによる深耕(90 cm程)が複数回なされていた。そのため、アカホヤ層上の自然層は、ほとんど残存しないなど攪乱状態であった。

なお、畑部分の分布調査において、土器片などが少量採集されたのみである。また、確認調査においても、僅かな範囲に残存していたアカホヤ上位の褐色土で確認された遺物は数点であった。アカホヤ下位の通常縄文早期の包含層である黒褐色土はよく残存し、礫などが包含されていた。

第2節 調査地の層序

分布調査や確認調査の結果から、調査対象を縄文早期の包含層に絞り、重機でその直上あたりまでの表土・攪乱土等を重機で除去した。除去後、調査地の旧地形は、南北に延びる尾根状の地形であることが確認された。中央南寄りには東西に延びる小谷があり、昨年度調査した2区の小谷に連なることが判明した。この小谷を境に調査区の地形は北と南の2地区に区分でき、北区



写真3 調査区北半の土層



写真4 調査区南半の土層

及び中央部にも198 mに最高位がある。調査区全域に牛のすね火山灰層、アカホヤ層は存在するが、この2層の上位、下位の層は大きく異なっている。北区ではアカホヤ上位は詰まりの弱い褐色土層で、南区では黒色土層である。アカホヤ下位においては、北区では黒褐色土層、暗黒褐色土層と続き、南区では10 cm程の黒色土層（埋没表層）、強く詰まる黒褐色土層と続いている。

なお、昨年度調査した1区では詰まりの弱い褐色土層で縄文後期、古代の遺物が出土している。

第3節 第1地点の調査概要

1 1区の調査

昨年度、1区北端部の1～3区の中では傾斜のゆるやかな部分であった箇所、遺物が集中していた。また、わずかに黒味の強い箇所が何箇所も確認されていたので、その下部に遺構の存在を予想したが、時間に余裕がなかったので、本年度その下部の調査を行った。その結果、竪穴遺構2基、土坑10基を確認した。竪穴の平面形はやや歪な円形と隅丸方形である。前者は長軸3.3m、短軸2.7m、深さ0.15mでピットも確認している。後者の遺構は、長軸2m、短軸1.8m、深さ0.2mであり、ピットは確認されなかったが、この2基は竪穴建物跡と推定している。

土坑の規模は径0.7m～1.8mほどであり、断面はいずれも挿鉢状である。



写真5 1区北端部の遺物出土状況（昨年度）



写真6 検出された遺構

2 4区アカホヤ上位の調査

アカホヤ上位の調査は、アカホヤ層あたりまで攪乱を受けていた中央畑の北端と南端を調査した。調査層は北端では褐色土層、南端では黒色土層である。畑南端はアカホヤが良好に残存していたので、縄文後期等の遺構の存在を予想して調査を行った。検出された遺構は、北端で埋土が褐色土の陥穴1基、4区南端で縄文中期の堅穴1基、縄文後～晩期の土坑、袋状土坑、その北隣接地、畑南端のアカホヤ面では袋状土坑、土坑を検出した。袋状土坑は計5基確認されている。

(1) 遺構

写真7は大平式土器が出土した隅丸方形の堅穴で長軸2.9m、短軸2.6m、深さ10cm程が計測される。写真8は長方形プランの袋状土坑が長軸1.1m、短軸0.55m、深さ1.2cm程が計測される。底面は上端とほぼ同規模であるが、側壁は四方に広がり、最大長軸1.4m、短軸0.8mが計測される。遺物は貝殻条痕のある土器、口縁部が肥厚している土器が出土している。



写真7 堅穴



写真8 袋状土坑

(2) 出土遺物

出土遺物は遺構内及び包含層出土である。遺構内出土の量は多くはないが、その中で2基の土坑からはやや纏まって出土している。1・2は縄文中期の土器で、1は堅穴出土の大平式で、2は包含層出土で中尾田3類ではと指摘がある。3・4は後期の土器で3は肥厚帯に沈線文、4は口唇部に刻目、その下に突帯を貼付け沈線文が施文されている。5～7は包含層出土の黒川式で磨研の浅鉢と粗製の深鉢である。8～10は同じ土坑出土で8・9は黒川式、10は入佐式と思われる。



写真9 アカホヤ上位黒色土出土土器

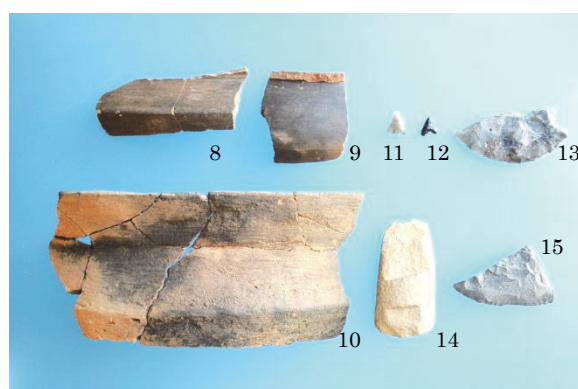


写真10 アカホヤ上位黒色土出土土器・石器

黒色土層から出土した石器類は、石鏃、石匙、削器、磨石等があるが、その量は多くはない。11・12は黒曜石の石鏃で、11は姫島産である。13はチャート製の横型の石匙で、14は石斧の破損品である。15は両面から押圧剥離により刃部がつけられた削器である。このほかドングリの

種子と思われる炭化物も1点出土している。

16～20は4区で排土等で表採された遺物である。16は全長7.5cmの圭頭鏃、17・18は成川式の破片で、古墳時代の遺物である。19は格子目のある須恵器、20はヘラ切りの坏で平安時代の遺物である。



写真11 表採遺物

なお、弥生時代の磨製石鏃と思われる石片も採集されている。

3 4区アカホヤ下位の調査

アカホヤ層下位には、7600年前より降下した牛のすね火山灰、埋没表層と言われる黒色土があり、その下位の層は北半では黒褐色土層、暗黒褐色土層と続き、南半では10cm程の黒色土層、強く詰まる黒褐色土層と続いている。土層の色調等は異なるが、出土した遺物は、いずれも縄文早期の遺物である。検出された遺構は竪穴、土坑、配石炉、集石遺構などがある。遺物は手向山式、平栴式、塞ノ神式、苦浜式などがある。また、包含層からドングリの種子と思われる炭化物が1点出土している。

(1) 遺構

写真12は丘状地形の尾根で検出した竪穴建物跡で、隅丸方形(A)とやや歪な円形状(B)の平面プランの2基が切り合っている。Aが新である。Aでは竪穴外のピットを確認するため7cm程掘り下げたところ径が12～16cm程のピットが6個確認された。長軸2.5m、短軸1.8m、深さ0.25mほどが計測される。写真13は2段掘りの土坑である。1段目は楕円形プランで底面はすり鉢状で長軸2.5m、短軸2.1m程が計測される。2段目は隅丸方形で床面は水平である。長軸1.4m、短軸0.8m、深さ0.3m程が計測される。遺物は上部で多く出土し、土坑下半からの出土10点以下と少なかった。現在確認している土器は、手向山3式段階と推定される山形押型文、平栴式土器である。



写真12 竪穴建物跡



写真13 2段掘土坑

写真14は、4枚の厚い板石中心にして長軸0.5m、短軸0.4mの範囲に配石された遺構である。底石の上には小礫が10個余り乗っただけであったので、配石炉としている。奥2枚の板石は立てている。写真15は径0.7m程の集石遺構で、遺構内には焼礫が詰まった状態で検出されている。壁面には礫が丁寧に葺かれている。

写真16は底に5角形の板石を置き、底石のラインに合わせて、板石を開きながら立てている。長軸0.65m、短軸60mで底石からの深さは0.2mほどである。遺構は、遺構内には焼礫が詰まった状態で検出されている。写真17は磨石2点(径9cm、8cm程)を密着させて、やや斜め方向にして埋納された遺構である。土坑は径14cm、深さ6cm程が計測される。



写真14 配石炉



写真15 集石遺構壁面の配石状況



写真16 集石遺構壁面の配石状況



写真17 磨石2点の埋納状況

(2) 出土遺物

遺構内から出土した遺物は少なく、ほとんどが包含層出土である。

21は山形押型文、22は手向山3式の胴部下半部である。23・24は刻目突帯のある土器である。25～28は平椀式口縁部で、25・26は口縁部に断面三角状の突帯をもつタイプ、27・28は口縁部に肥厚帯をもつタイプである。29・30は2段掘土坑上部出土で、29は壺の口縁部である。31は平椀式壺の頸部から肩部で、列点文、沈線文で施文されている。



写真18 押型文 手向山式 平椀式

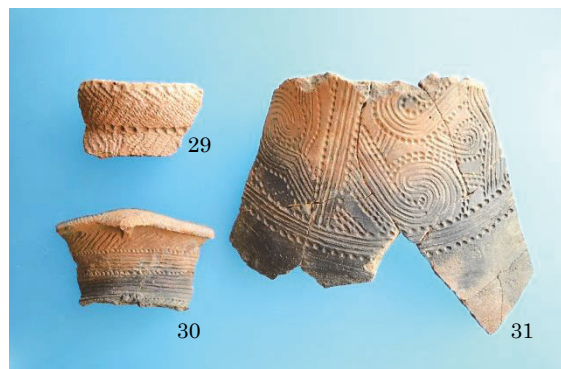


写真19 2段掘土坑出土土器 壺頸部

32は結節縄文が地文として？施文された後、刻目突帯が張り付けられた口縁部である。33・34は石峰式で頸部に刻目突帯、胴部に縄文あるいは結節縄文が施文されている。35は椀ノ原式の頸部～胴部で胴部に網目状撚糸文が縦方向に施文している。36は頸部が外反し口縁部が内湾気味にたちあがる口縁をもつ塞ノ神式である。37は沈線文で区画された中に撚糸文が施文された胴部で塞ノ神A式である。38は口縁上半部に沈線文、下半部に貝殻刺突文が施文された塞ノ神B式である。39は貝殻条痕文を地文として、刻目突帯が貼り付けられた苦浜式である。口唇部には刻目が施文されている。40は施文方法は不明であるが、山の部分が丸い隆線上下に半円が連続して施文

された口縁部である。口唇部内側は丸く仕上げ外端部に刻目が施文されている。

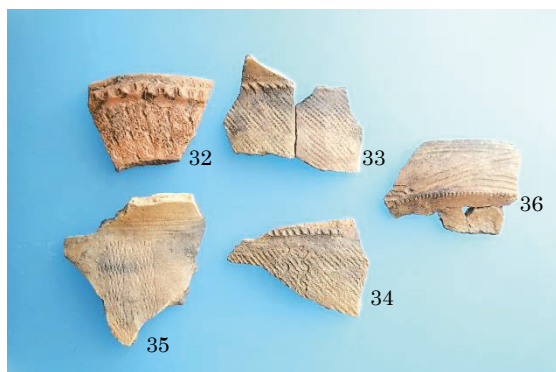


写真 20 石峰式 柎ノ原式 塞ノ神式



写真 21 塞ノ神式 苦浜式

41 は凹石、42 は磨石である。磨石の出土量が多い。また、石皿や片面に摩滅痕があり石皿として使用したと思われる大石も出土している。43 は敲石で下端に敲打痕がある。44・45 は石斧で、46～54 は石鏃である。石鏃の石材は黒曜石、水晶、チャート、メノウなどがある。55 は砂岩の剥片で下端に使用痕が認められる。下縁にその際の剥離が残る。56 は縦型の石匙で、全長 7.8 cm 程ある。57・58 は横型の石匙で、57 は安山岩製、58 は姫島産の黒曜石である。59～63 は異形石器で 59 は表採資料である。61 は石鏃形で、脚部に深い抉りが左右対称 2 か所あるので異形石器としたが、異形でない可能性もある。64～66 は用途不明の丸石で、64 には据えられるように下面にわずかながら平坦部を作り出している。



写真 22 縄文早期包含層出土石器 1



写真 23 縄文早期包含層等出土石器 2

4 小結

4 区の土層は、牛のすねとアカホヤ層の上位・下位の層は、北半と南半とでは異なるが、1～3 区も同様であった。各々の層に包含される遺物等に違いはない。

アカホヤ上位で検出された袋状土坑は、縄文中期から後～晩期と推定されるが、現在のところ詳細な時期は不明である。用途については貯蔵穴の可能性はあるが、確証はない。

アカホヤ下位で出土した土器は、手向山 3 式、平柎式、塞ノ神 A 式、塞ノ神 B 式、苦浜式などである。平柎式が 90% 以上で、塞ノ神 B 式などは数% 以下である。平柎式は全域で出土し、塞ノ神式は東縁で出土する傾向があった。

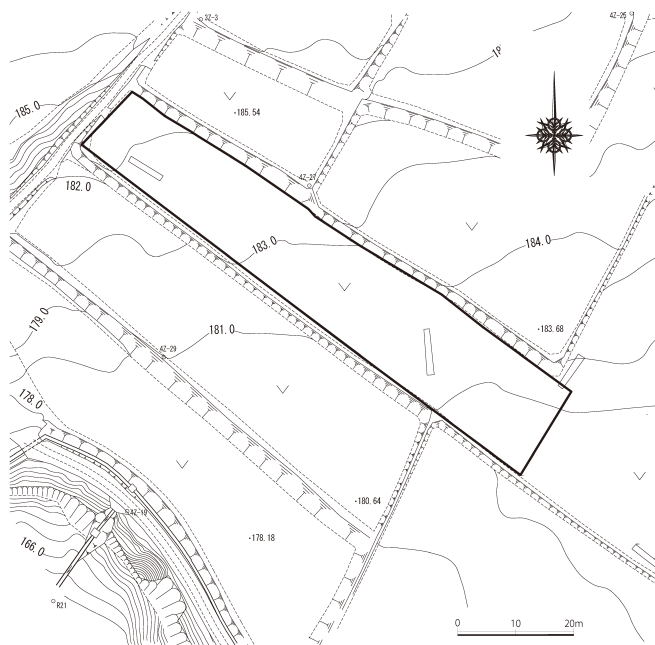
4 区で検出された竪穴遺構の平面形は、隅丸方形や歪な円形状で長軸 2.5m 前後である。1 区で検出された竪穴遺構の平面形も同様で、規模も類似している。集石遺構については配石があるものやないもの、土坑を伴うものやないもの、また規模などいろいろなタイプのものがある。

第3章 第2地点の調査概要

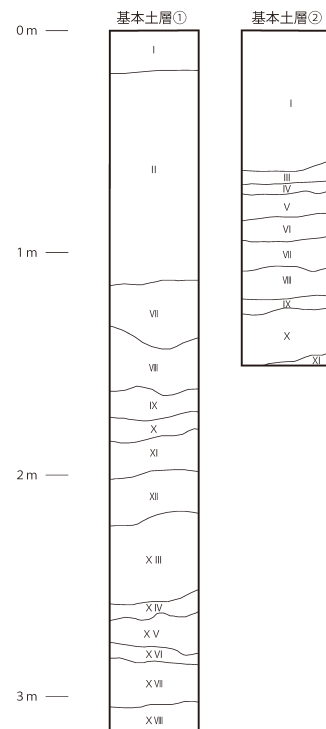
第1節 第2地点の調査と層序

第1地点同様、西諸県農林振興局、宮崎県文化財課、高原町農政畜産課、高原町教育総務課との協議の結果、工事によって影響を受ける1,730 m²について調査を実施した。調査区は南東壁方向にやや余幅をもたせて設定している。第2地点の立地は舌状台地のやや中央寄りであり、南西から南東に延びる谷に向かって傾斜している。

平成30年5月22日、6月1日に計11本のトレンチを入れ土層の堆積状況および遺物包含層の確認を行った。その後6月4日から28日にかけて表土剥ぎを行い、8月28日から発掘作業員をいれて調査を行った。旧地形測量委託及び空中写真撮影を平成31年2月7日に行い、2月15日に全ての調査を終了している。



第3図 第2地点の調査区



第4図 第2地点基本土層柱状図

土層の堆積は、多少の色度の違いはあるものの調査区全体でほぼ同じ堆積であったが、堆積が調査区の一部にしか認められないものもあった。そのため基本層序は第4図の通りとした。Iは暗褐色粘質土で現代の耕作土、IIは黒褐色粘質土で造成土である。IIIは明黄褐色を呈する新燃岳享保軽石層である。IVは黒褐色粘質土である。Vは褐色で高原スコリアである。VIは明黄褐色砂質土である。VIIはにぶい黄褐色砂質土である。VIII、IXは黒褐色粘質土である。Xはにぶい黄褐色粘質土、XIはにぶい黄橙色粘質土である。XIIは明黄褐色の牛のスネ火山灰上部である。XIIIは明黄褐色でアカホヤ火山灰層、XIVは橙色でアカホヤ火山灰豆石層である。XVは灰色を呈する牛のスネ火山灰下部である。XVIは黒色砂質土、XVIIは黒褐色粘質土、XVIIIは暗褐色粘質土である。

遺物・遺構の分布は調査区中央付近から南東が中心である。VIII層が最も多く、VII層、IX層でも少量ではあるが遺物が出土している。主な出土遺物は黒川式土器、孔列文土器、刻目突帯文土器、石鏃、石斧、石錘、磨石等である。遺構は土坑、ピット、陥し穴状遺構が検出された。

第2節 検出遺構と出土遺物

第2地点の調査の結果、土坑20基、ピット12基、陥し穴状遺構1基が検出された。土坑のうち遺物を伴うものは2基であり、1基からは黒川式土器が出土している。陥し穴状遺構は平面形は楕円型で長軸1.9m、短軸1.2m、深さ1.4mを測る。底面からは逆茂木とみられる小ピットが2箇所確認できた。埋土は、中心付近から下層はアカホヤ火山灰や牛のスネ火山灰ブロックを含む土で埋まっており、上層は自然堆積であった。遺物が伴わないため、時期は不明であるが、霧島御池軽石が自然堆積していたことから、使用時期はそれ以前であったと考えられる。

遺物は土器は黒川式の精製土器（67～74）、粗製土器（76～79）や孔列文土器（80）等が出土している。黒川式の精製土器は中～古段階のものが多く出土しており、新段階のものも出土している。また刻目突帯文土器（81～83）も出土している。石器は打製石鏃（86～93）、打製石斧（95～97）、石錘（98）、磨石（100）等が出土した。石錘は切目である。チップ類は総数は多くはないが、一部遺構の周辺で多く出土した。

第3節 小結

第2地点の調査の結果、縄文時代晩期^{註1}を中心とした遺物が出土した。遺構は土坑20基、ピット12基、陥し穴1基が検出された。ピットはすべて単独であった。遺物を伴う土坑のうち1基から黒川式土器が出土した。主な遺物は黒川式土器、孔列文土器、刻目突帯文土器、石鏃、石斧、石錘、磨石であった。調査区内で居住の痕跡は認められなかった。また、トレンチ調査にて縄文時代早期相当層まで確認を行ったが、遺物・遺構は検出されなかった。

註1：まとめ、抄録では弥生早期と併記しているが、整理途中段階であるため、検討を要する。



写真24 第2地点調査区全景
(南から)



写真25 作業風景



写真26 基本層序



写真27 土坑半截状況 東から
(黒川式土器出土)



写真 28 陥し穴状遺構 土層堆積状況
(東から)



写真 29 陥し穴状遺構 逆茂木断ち割り
(西から)

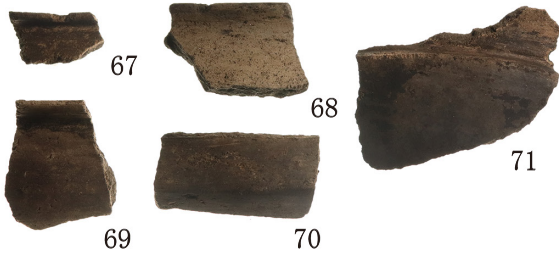


写真 30 出土土器 1



写真 31 出土土器 2

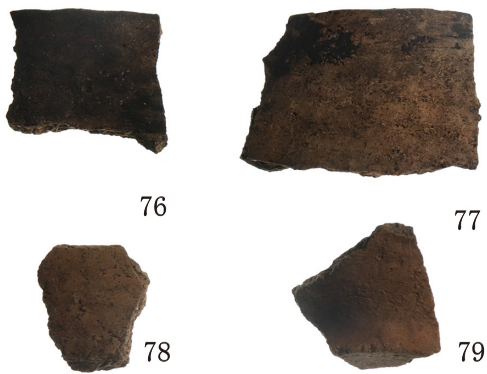


写真 32 出土土器 3

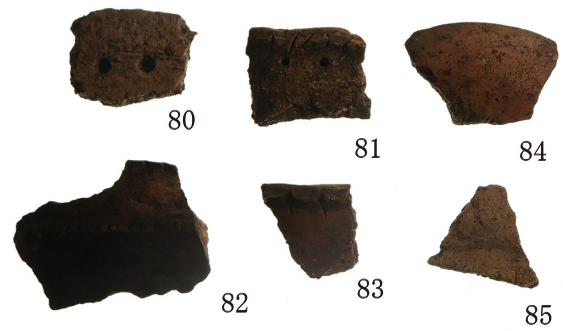


写真 33 出土土器 4

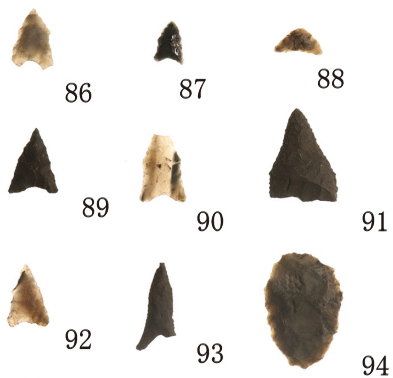


写真 34 出土石器 1



写真 35 出土石器 2

第4章 まとめ

井ノ原遺跡の第1地点では、縄文早期後半、中期、後期、晩期の遺物が出土し、第2地点では縄文晩期、弥生早期の遺物が出土している。このほか第1地点では古墳中期頃の成川式、小型の圭頭鏃、古代後半のヘラ切りの坏、格子目の須恵器が表採されている。第2地点では1点であったが圭頭鏃が出土している。このことから井ノ原遺跡では縄文早期後半、中期、後期、晩期、弥生早期、古墳中期頃、古代後半の遺跡であることが判明した。検出された遺構から見ると遺跡は、縄文早期後半、中期、後期、晩期、弥生早期が主たる遺跡であると言える。縄文早期後半の時期は第1地点中心、縄文晩期は第1地点の南端から第2地点にかけてが推定範囲と考えている^{註1}。

縄文早期後半の土器は、手向山3式、平栴式、塞ノ神A・B式、苫浜式土器が出土しており、平栴式の出土量は90%以上である。石器は、磨石、石皿、凹石、敲石、石鏃、石匙、異形石器などが出土している。異形石器は6点程出土しており注目される遺物である。

縄文早期後半の遺構は、本年度1区では竪穴遺構2基、土坑9基、昨年度は1～3区では配石炉、集石遺構等が検出されている。本年度4区でも竪穴遺構3基、配石炉、集石遺構、2段掘土坑等が検出されている。

竪穴遺構の平面プランは、隅丸方形(A)とやや歪な円形状(B)の2タイプがある。1区においては円形状のタイプでは竪穴内で柱穴と推定されるピットが、4区においては隅丸方形のタイプでは外周でピットが確認されている。隅丸方形の規模は長軸2.5m、短軸1.8m程で、円形状の竪穴は長軸3mとやや規模が大きい。1区、4区の竪穴遺構の規模はほぼ同じであり、竪穴遺構は建物跡と考えている。2段掘土坑は縄文早期の遺構としては、まだ、類例を把握していない遺構である。

集石遺構はいろいろなタイプが検出されている。そのタイプは①やや深い土坑を伴い、壁面を板石あるいは礫で葺き、その中に礫が入るタイプ、②検出面で礫がやや密集し、下部に土坑が存在するが、礫があまり含まれないタイプ、③浅い土坑内に板石を複数枚を水平気味に配石するタイプ、このタイプの場合は配石上に礫が乗っているがその量は少ない。④板石で底面、壁面を造るタイプ、このタイプも配石上の礫その量は少ない。④については、今回は配石炉として報告しているが、今後、集石遺構のタイプについては検討していきたい。

なお、井ノ原遺跡の第1地点4区の土層は、牛のすね・アカホヤ層の上位層は北半が詰まりの弱い褐色土、南半では黒色、牛のすね・アカホヤ層の下位の層は、北半では黒褐色で、南半では黒色土、強く詰まる黒褐色土と続いている。昨年調査した1～3区も同様である。第2地点の土層は、4区南半と同様である。土層が異なる原因については当時の環境・植生・樹木相の違いによるものと思うが確証はない。

註1：第1地点の中央部にあたる畑では、トレンチャーによる深耕がなされていたが、分布調査においても、また表土剥ぎの際にも縄文晩期の遺物は採集されていない。

報告書抄録

ふりがな	いのぼるいせき							
書名	井ノ原遺跡							
副書名	県営畑地帯総合整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書（４）							
シリーズ名	高原町文化財調査報告書							
シリーズ番号	第１８集							
編集者名	面高 哲郎							
発行機関	高原町教育委員会							
所在地	〒889-4412 宮崎県西諸県郡高原町大字西麓 392 番地							
発行年月日	平成３１年（2019）３月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯	東経	調査期間	調査 面積	調査原因
いのぼる 井ノ原遺跡	たかはるちよう 高原町 おおあざうしろかわち 大字 後川内 あざいのぼる 字井ノ原	450413	N11	31.930	131.077	H30、４、23 ～ H30、３、26	約 6,700 m ²	記録保存
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
井ノ原遺跡 （第１地点）	集落跡	縄文早期 中期 後～晩期	竪穴建物跡 配石炉 集石遺構 ２段掘土坑 袋状土坑	土器：手向山式 平椀式 塞ノ神式 苦浜式 大平式 黒川式 石器：石鏃、石匙、磨石 石皿 異形石器			早期の２段掘土坑は 南九州では検出例は ないようである。	
井ノ原遺跡 （第２地点）	散布地	縄文晩期 弥生早期	陥し穴 土坑	土器：黒川式 孔列文土器 刻目突帯文土器（夜白式） 石器：石鏃 打製石斧 磨石 石錘				
要 約	○ 今年度の調査地は、遺跡の尾根部と西緩斜面の一部（第１地点）及び南端の舌状台地部分（第２地点）である。 ○ 出土した土器の時期は縄文早期、中期、後期、晩期の遺物が出土している。第１地点では縄文早期、第１地点の南端では中期、後期、晩期の遺物が出土し、第２地点では晩期の遺物が出土している。 縄文早期の出土土器の90%以上は平椀式である。 ○ 第１地点では縄文早後半平椀式土器の時期と推定される異形石器が現在８点確認されている。 ○ 第１地点では縄文早期後半の竪穴建物跡、集石遺構、配石炉、２段掘土坑、中期の竪穴建物跡、晩期の袋状土坑などの遺構が検出されている。第２地点では、御池軽石降下前の陥し穴、晩期の土坑が検出されている。							

高原町文化財調査報告書第 18 集

井 ノ 原 遺 跡

県営畑地帯総合整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書（4）

2019年3月

編集・発行 高原町教育委員会

〒889-4492 宮崎県西諸県郡高原町大字西麓 899 番地

TEL 0984-42-1484 FAX 0984-42-3939

印刷 (株) 長崎印刷

〒889-4413 宮崎県西諸県郡高原町大字後川内 18-2 番地